

第三章 富士市観光の現状

1 富士市の観光入込客数の推移

本市への観光入込客数の平成23年度からの推移をみると、観光交流客数は、新東名高速道路開通による道の駅富士川楽座の利用者数減により、平成24年度は前年比約9%減、平成25年度は前年比約5%増となっています。

一方、宿泊客数は、平成24年度は前年比約7%増、平成25年度は前年比約27%増となっています。

本市への宿泊客数は、前計画で示された平成26年度の目標宿泊客数の45万人を超えていますが、本市のビジネス環境の改善はもとより、富士山の世界文化遺産登録の効果によるものと考えています。

今後の観光振興策において必要なことは、来訪者に“見る”“遊ぶ”“食べる”“買う”を基本にした受入態勢を確立することであり、さらに、風情ある風景や豊かな歴史、魅力ある祭りやイベント及び地域産品等を中心に地域の魅力を高め、観光交流客数の増加に繋げていくことが重要な課題です。

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
観光交流客数	6,433千人	5,880千人	6,182千人
観光レクリエーション客数	6,005千人	5,422千人	5,600千人
宿泊客数	428千人	458千人	582千人

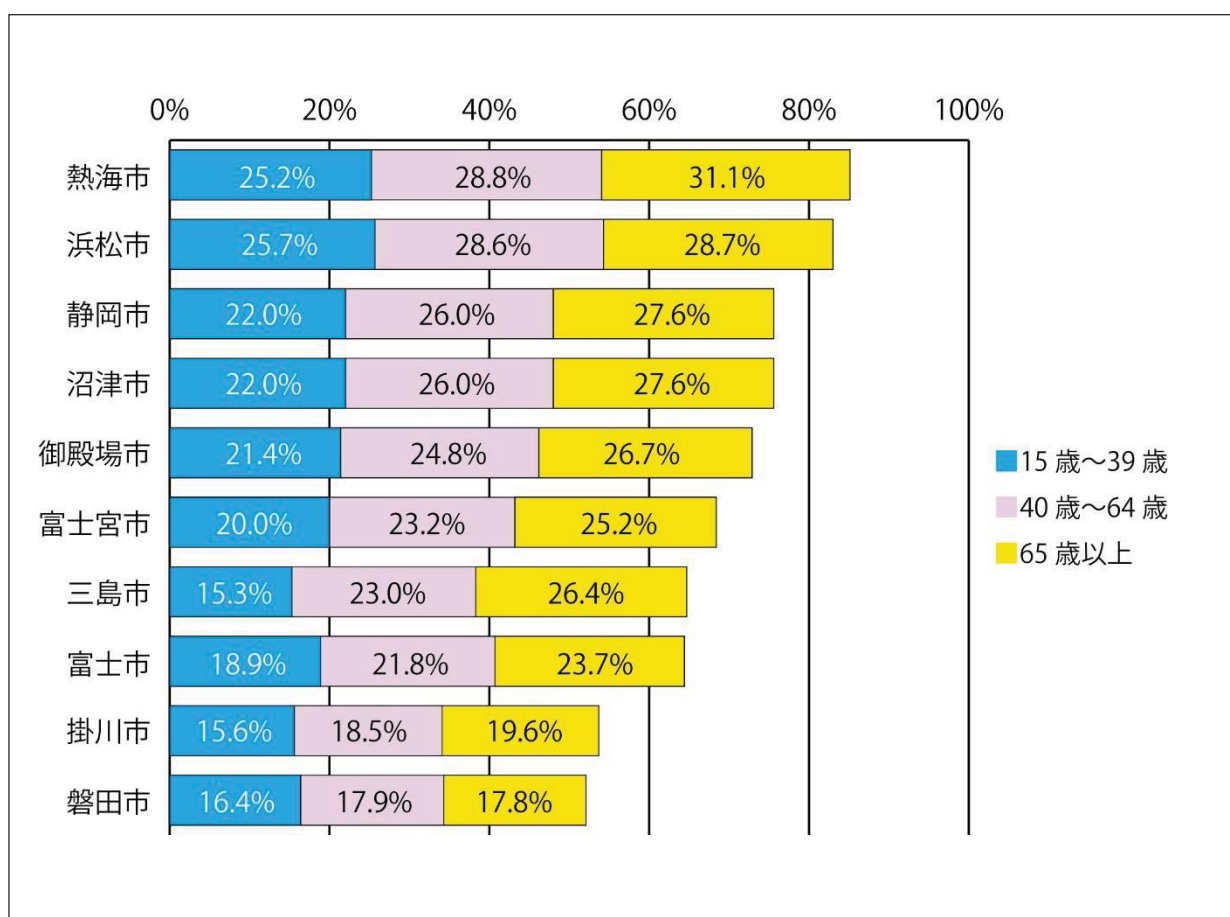
※観光交流客数＝観光レクリエーション客数＋宿泊客数

2 アンケート調査から見る富士市の観光

「富士市の都市イメージに関するアンケート」調査(平成25年11月実施)

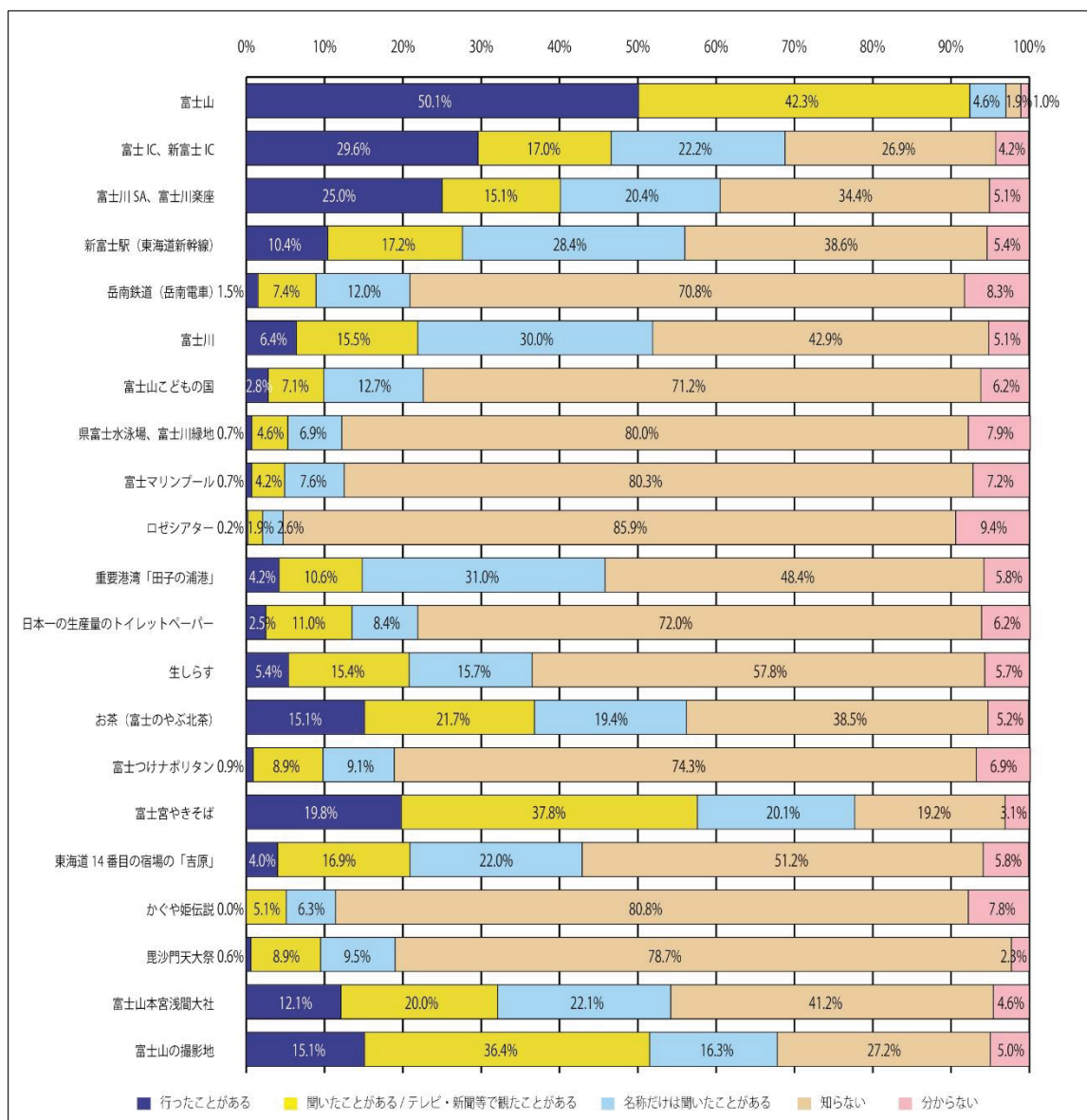
※本調査は東京都、神奈川県、愛知県、大阪府のいずれかに居住している15歳以上(中学生を除く1,248人)のインターネット調査です。

- ① 「静岡県の都市の名前を知っていますか」という設問の中で、「行ったことがある」「聞いたことがある／テレビ・新聞等で見たことがある」と回答した人の割合



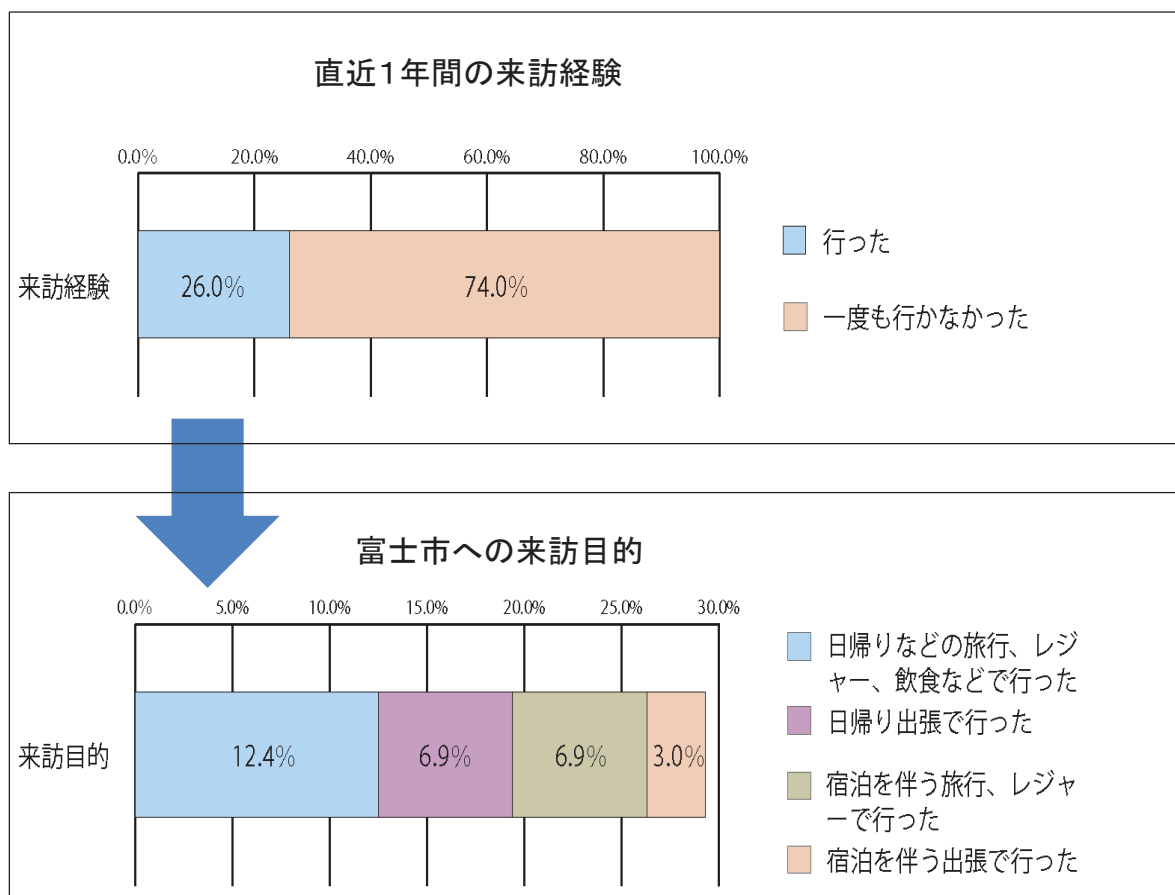
富士市は10都市中7番目(15歳～39歳)～8番目(40歳～64歳、65歳以上)と比較的少ないことが伺えます。

②「富士市近辺における施設、特産品をご存知ですか」という設問に対する回答



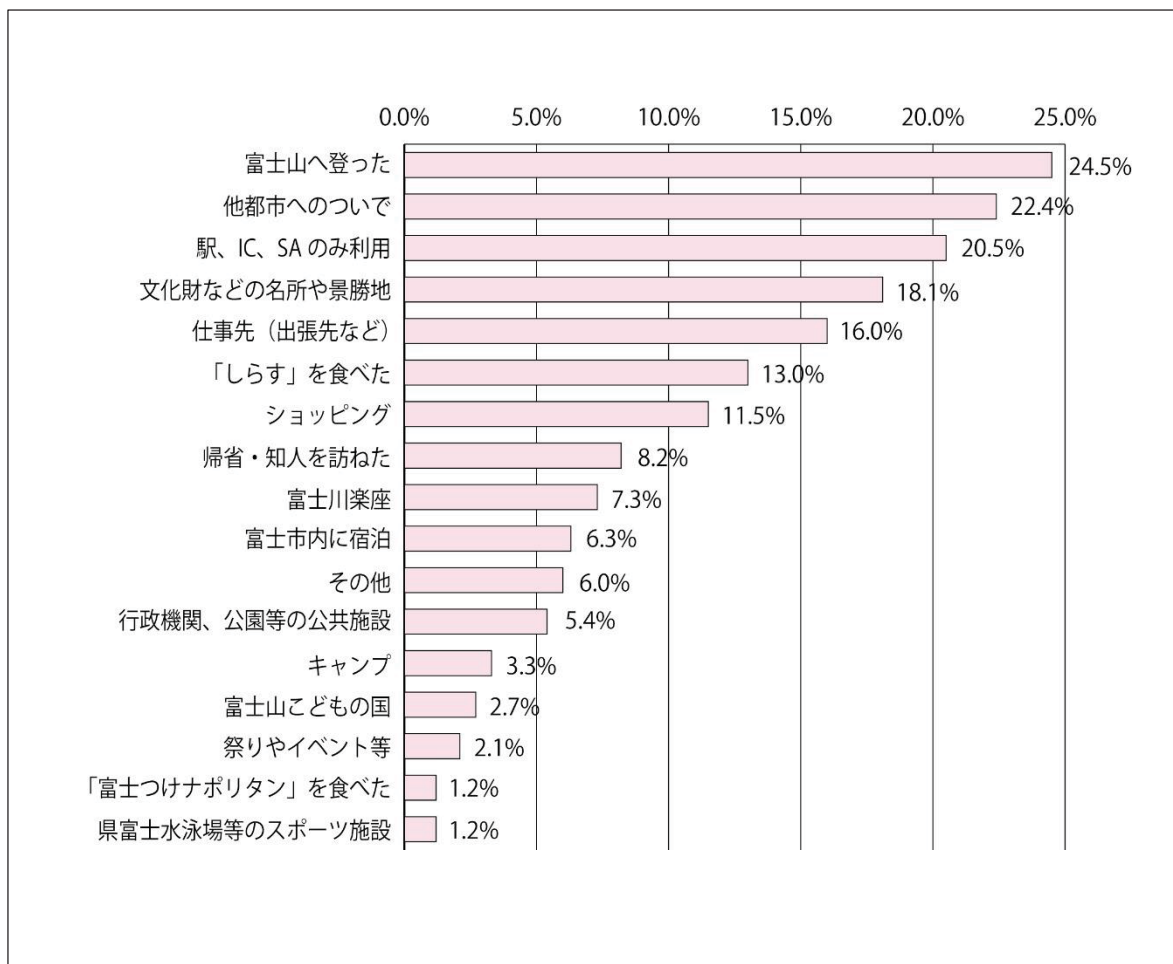
行ったことがある、聞いたことがあるでは、ダントツの「富士山」や東名・新東名高速道路の「富士IC、新富士IC」を除くと、①「富士川SA/富士川楽座」、②「富士宮やきそば」、③「富士のやぶ北茶」「富士山撮影地」等となっており、「生しらす」「田子の浦港」「吉原」などは比較的少なく、特に注目すべきは、富士市がトイレットペーパーの生産日本一であることを「知らない」が72%であり、市の内外で認識の差があることが分かりました。

③富士市に行ったことのある人の中で、直近1年間に富士市に行ったことのある人の割合



富士市へ行ったことのある人の中で、直近1年間での来訪経験は、1,248人中331人の26%が「行った」と回答しています。内訳を見ると「日帰り／旅行レジャー／飲食」の割合が多いのが特徴です。

④「富士市に行ったことのある人」の来訪時の目的に対する回答



富士登山、他の都市へのついでに立ち寄ったという人が多いという結果となっています。「しらす」については、13%が食しているものの、「祭りやイベント等」は2.1%と低い値になっています。